



創立 1995 年 10 月 18 日

2016～17年度 テーマ **新鮮な全員参加の輪を広め タヤけのまち永久に照らそう**

臨時総会・例会

日 時：平成 28 年 12 月 8 日(木) 12:30～14:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：62 名 出席率 95.4%

(会員総数 68 名 休会 3 名 欠席 3 名)

会食とハッピーコイン披露

宮城例会委員長の進行で会食に入り、武田副会長からハッピーコイン 19 件の披露があった。

(5～6 ページに掲載)

臨時総会

1. 開会 宮城例会委員長

臨時総会開催告知と配布資料の確認

2. 岩島会長挨拶

今日の臨時総会は来年の 2 月 23 日(木)から始まる第 21 回生涯学習サロンの特別会計予算の審議に関するものであります。

生涯学習サロンは当クラブがスタートしました年度から今日まで毎年欠かさず開催している当クラブの地域奉仕活動の中核をなす事業であります。21 年も経ちますと構造疲労も出てまいりまして、いろいろと課題も出ております。しかし、生涯学習というものは、いつの時代においても、人生を豊かにする上で誰もが心がけたい大切なニーズであります。

法隆寺の建造物が 1300 年もの歴史を背負って未だに健在なのは、1300 年の生育期間、つまり、1300 年の年輪を有するヒノキを使っているからでありまして、事業に関しても長く続ければ続けるほど、伝統に裏打ちされたいい味のある事業となって行くのではないのでしょうか。そして、そのためには、構造疲労を会員の英知を集めて修復し、その時代時代にマッチした生涯学習サロンを作り上げていく必要があると思うのです。一つの事業を止めるのは簡単で

す。しかし、逆に作り出すことは大変なエネルギーが必要です。

そんなわけで、みんなで生涯学習サロンを未来永劫育て上げていくのだという心構えをもって進めてまいりましょう。

3. 議長選任

恒例により会長を議長に選出。会長より、会員総数 68 名の内、出席会員 62 名であり、本総会が有効に成立していることが宣言された。

4. 書記 1 名、議事録署名人 2 名選出

書記に根本洋子会員、議事録署名人に阿部治子会員と下田泰造会員が選出された。

5. 議 事

第 I 号議案 第 21 回生涯学習サロン特別会計予算(案)承認の件

持田地域奉仕委員長より、「今回は外部講師が多いが、ほぼ前回の予算と同じになった。」との説明があり、採決の結果、原案どおり可決承認された。

6. 議長解任

7. 閉会

第 254 回例会

1. 開 会 宮城安子例会委員長

12 月例会の開会を宣する。

2. 岩島会長挨拶



皆さん今日は。

年を取って来ますと、時が過ぎてゆくのがとても早く感じます。2016 年「(平成 28 年)」も、もうすぐ終わりであります。聖路加国際病院名誉院長の日野原重明先生が朝日新聞に載せておられる先日の記事で、先生は「わたしの生涯は毎日が生きた俳句のごと」

という句を詠まれ、解説として、「わたしがこれまで生きてきた 105 年という年月は、まさにわたし自身に与えられ、大切に生きてきた『いのちの時間』であり、そしてこれから先も 1 日 1 日を、まるで俳句の様に凝縮させて生きてゆきたい。」と仰しゃっておられます。私も先生に習い 1 日 1 日を大切に、「一日一生」の思いをもって生きてゆきたいと思います。

さて、当クラブは先月から今月にかけていろいろな事業活動を行いました。まずは 11 月 10 日の野外研修「生命の星・地球博物館」と小田原界限周遊は、ほぼ天候に恵まれ、有意義な充実した研修旅行をすることが出来ました。これも偏に研修委員会そして例会委員会の皆様のご努力の結晶であり、ありがとうございました。

次に、11 月 19・20 日のいちょう祭り。19 日は午前中雨が降り、この日はやや人出が少なかったのですが、翌 20 日は好天に恵まれ、大混雑するほどの盛況でありました。佐々木祭典委員会会長はじめ皆さん大変ご苦労様でした。

そして、11 月 29 日は北九州市で全日本プロバス協議会第 7 回総会および北九州大会が催され、当クラブからは立川協議会副会長をはじめ 13 名が大挙して参加致しました。北は北海道旭川、南は鹿児島から、27 のプロバスクラブ、総勢 180 名が参加して、楽しい交流ができました。

北九州市は昭和 38 年に若松、八幡、戸畑、小倉、門司の 5 つの中都市が合併した人口 96 万人の政令指定都市でありまして、北橋健治市長も出席され、我々を迎えてくださり、「生涯現役で活躍できるまちづくり」と題して講演をしてくださいました。

次回の第 8 回総会は三重の 5 つのプロバスクラブが担当され、三重伊勢大会として、再来年の 2018 年に開催が予定されております。

そして今月に入り、12 月 4 日 Dr. 肥沼顕彰碑建立のためのチャリティーイベントにも大勢の当会員が参加下さり、いちょうホール（大ホール）はほぼ満席となり、成功裡に開催されました。ご協力ありがとうございました。

以上 11 月から今月に掛けて行われた事業活動の簡単な報告を申し上げて、私の挨拶を終わります。

3. パースデーカード贈呈

岩島会長から 11 月・12 月生まれの方々に、池田

会員手作りのパースデーカードが贈られました。

11 月：渋谷、石田、東山、杉山、山崎修司の各会員

12 月：齊籐、宮城、飯田の各会員

おめでとうございます。



4. 卓話

「和算で遊ぼう」

下山邦夫会員



物好きにも 10 年ほど前から和算研究所の会員になって、年に 1~2 度のイベントに出席したりしています。面白さがあるので、紹介しようと思いました。

和算で遊ぶのですが、その歴史を知っていないと何をやっているのか解りにくいので、前提の歴史を抜き読みします。

メソポタミヤ・エジプトのオリエント文明、ガンジス河流域のインド文明、黄河流域の東アジア文明、世界の 3 大文明それぞれが独自の数学を生んでいました。黄河流域では BC 2000 頃からの夏の時代=先史時代に数学が芽生えていたに違いないのですが、記録はありません。BC 1 世紀（前漢）に「九章算術」が生まれています。世界文明史、数学史上、貴重な本です。以後ほぼ 2000 年にわたって、東アジアの算数の大枠を決めた書物です。9 章あり実用的な範囲を満たす具体的な問題が載っています。算木と算盤が計算道具として使われています。九九も知っている前提で書かれています。西暦 3 世紀（魏）にその注釈が出て整理されました。日本に伝わった記録はないが、欽明 15 年（西暦 554）に百濟から暦博士らが来たとの記録から伝わっていたかもしれないと思われます。万葉集には九九が読みに使われていて万葉の頃には九九があったことは確かです。

その後中国では 13 世紀になって「算学啓蒙」という本が書かれ、「天元術」と言って、これで未知数

のある方程式を算盤で解くことが可能になります。九章算術から少し進歩したわけです。本国では失われて朝鮮に伝わっていました。秀吉の出兵の時、持ち帰りました。日本ではすぐには理解されませんでした。

江戸時代に入って、算術が実用上広がりソロバンが使われ、その教育に本が出ます。算盤は高等数学用になりました。中でも「塵劫記」(1627)は丁寧で絵が入っていて、優れた本で大ヒットします。海賊版も多く出ます。著者の吉田光由は、パズルのようなテーマを加えたりして対策します。ついには遺題と言って問題を巻末につけ、解いてみろと制約を加えます。これを解いて新たな遺題をつける本も出ます。それがリレー式に連鎖します。遺題継承と言います。

そのうち「算学啓蒙」を理解した人(沢口一之)が天元術を使って問題を解き遺題を残します(古今算法記 1671)。この遺題は天元術だけでは解けません。未知数が多くあるのです。これを関孝和(せきたかかず)が新しい方法を編み出して解きます(1674 発微算法)。そのとき発明したのが文字係数の方程式と行列式です。行列式は世界でも最初の例となりました。ここで中国の算学を脱出、リードした事は明らかでしょう。

もう一つ算術が発達した理由があります、それは算額奉納の流行です。難しい問題を解いて、それを神社などに絵馬のように奉納しました。これも競うことで発達につながりました。八王子では片倉の住吉神社にあります。嘉永4年奉納した額の複製です。

今日は算術の歴史を体験するため、算盤で遊ばしましょう。

算盤の並べ方、足し算、引き算、割り算、平方根を求める=天元術の初歩=をやってみました。



奉納された算額

5. 幹事報告 飯田富美子幹事

新年度も早6か月が過ぎました。

- 1) 中でも11月は多くの行事がありましたが、多くの会員の参加、ご協力ありがとうございました。お疲れ様でした。
 - ① 11月10日の野外研修(移動例会)は、参加者数は少なかったのですが、内容の充実した素晴らしい研修会となりました。
 - ② 11月19日・20日のいちょう祭りへは受付等に多くの方が協力していただきました。
 - ③ 11月29日の全日本プロバス九州大会への参加と山口方面の旅行は充実した有意義な会となりました。13名の参加がありました。
 - ④ 12月4日“おかえりなさい Dr. 肥沼チャリティーイベント”への参加。当クラブからは23名の参加を頂きました。
- 2) 肥沼氏への寄付金については1月例会時に申込用紙を用意いたします。ご協力お願い致します。
- 3) 11月7日の多摩プロバスクラブ忘年会へ会長以下4名参加。多摩プロバスクラブとの交流会、新年会へのご案内と俳句交流会の検討を行います。

6. 委員会活動報告

(1) 例会委員会 宮城安子委員長

今月の例会から、委員会ごとの席ではなく、各委員会と合同の席にしました。2月までは合同の席にします。また、本日の出席率は95.4%でした。

(2) 情報委員会 有泉裕子委員長

「プロバスだより 253号」をお手元にお届けいたしました。ご覧ください。今回はお仕事の出張等でお忙しいなか、有田委員が編集を担当して下さいました。また一人有力な情報スタッフが増えたと期待しています。

(3) 会員委員会 土井俊雄委員長

本年7月より12月までの会費徴収についてご報告申し上げます。7月と8月の例会で会員合計65名分1,300,000円の入金がありました。また、休会者3名分24,000円と新入会員1名の入会金+会費の計30,000円も入金されました。さらに、未納者1名分20,000円の入金もあり、合計1,374,000円となりました。未納者はいませんでした。従って、会費納入

66名、休会費納入3名、合計69名でした。

なお、岡本会員が入院のため、28年10月11日より29年1月31日まで休会になります。

(4) 研修委員会 池田ときえ委員長

小田原野外研修を無事に終えることができました。皆様のご参加ご協力に感謝します。

年々参加率が低くなり、例会を兼ねるのが難しくなっています。会員の高齢化等もあり、拘束時間の長い研修は見直す時期かもしれません。今後の委員会の課題として検討していきたいと思えます。

下山さんの卓話「和算で遊ぶ」は興味深いお話でした。いずれサロンでじっくりと聞かせていただきたいと思えます。

出前講座のまとめができました。1月例会にはお届けできると思えます。

新入会員の皆様には平成23年発行の研修委員会報告(まとめと報告)も併せてお届けしますので、どうぞお目通しください。

(5) 地域奉仕委員会 持田律三委員長

臨時総会に第21回生涯学習サロンの予算案を上程し、ご審議の結果、承認を得ることができました。ありがとうございました。これにより、いよいよサロンの実行段階に入ることになります。皆さんの協力を頂き、成功させるべく努力してまいります。

サロンの印刷物が出来上がったので、その紹介と説明を行った。1)「サロンへのお誘い」では今回外部講師が3人いるので、肩書を明確にして入れることで応募者に分かりやすく工夫した。2)「サロンの概要」には野外サロンも記載を入れて、より多くの方々に関心を持って頂けるようにした。

広報関係では市の「広報はちおうじ」への掲載を申請し、他にショッパーや新聞社へも申請をした。すべて1月号に掲載される予定。また、来賓として臨席して頂くべく市長・教育長へのお願いを済ませた。ロータリークラブや多摩・日野のプロバスクラブには今月中にお願いをする。

今後の予定は、一般会員向けに応募書類を年内に一式配送する。そのために前回の名簿を至急再確認する。また、地域奉仕委員の役割担当をサロン実施のために再確認し合う。

各委員会に依頼する事項については、月別に整理し、書面にて1月の理事会でお願いする。

(6) 八王子「宇宙の学校」 下山邦夫 PJリーダー

今年度のスクーリングは11月13日ですべて終了しました。ご支援ありがとうございました。

(7) 交流担当 浅川文夫理事

全日本プロバス協議会九州総会とツアーは旅の会も相乗りし、楽しい交流が出来ました。

今後も、他クラブとの交流会があると思えますが、積極的な参加をお願いします。

7. 同好会活動

美術鑑賞会 池田ときえ会員

今回は青梅美術館の「小島善太郎コレクション」を鑑賞し、午後はオリンパス技術歴史館瑞古洞を見学します。

8. その他

佐々木研吾会員

いちょう祭り祭典委員会からお礼を申し上げます。今年で37回目になりますが、今後ともご支援くださるようお願いいたします。

市制100周年をひかえ、来年はさらに良い催しにするよう頑張ります。

9. プロバス賛歌斉唱

10. 閉会 武田洋一郎副会長

例会へのご出席、お疲れ様でした。昨日来の気温の急変で、体調を崩された方もおられると思えます。ご自愛ください。

さて、全日本プロバス協議会総会の報告が会長・幹事から縷々ありました。各クラブも高齢化が課題となってきているようですが、今回の総会に90歳を越すプロビアン、堺プロバスクラブの太田隼之助会長が現役で活動されているとご紹介がありました。私からすると90までには、あと15年も先の話ですが、是非あやかりたいものです。

一常若、Stay Young！

皆様におかれましても、益々お元気にプロバス生活をお楽しみいただきたいと思います。早いもので、あと24日で年が変わるということです。来年は、酉年、更に羽ばたいて進みましょう。

それでは、早いですが、皆様には良いお年をお迎えできますよう御祈念申し上げます。

では、さようなら。

解説

*酉(ゆう、とり)

干支(かんし、えと)とは、「十干(じっかん)」と「十二支」を組み合わせた時間や暦の単位の一つ。十干は「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の10種類からなる数の単位。

十二支は「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」の12種類からなる数の単位。

動物に例えたのは、数詞を分かりやすくするためという説があります。

これらを組み合わせた結果が、60通りとなって干支の一巡りとなります。60歳で還暦、120歳になると2周で大還暦ということになります。

そして、2017年の正しい干支ですが、十干が「丁(ひのと)」、十二支が「酉(とり)」なので、「丁酉(ひのと・とり)」となりますね。



◆野外研修、いちょう祭り、全日本プロバス協議会総会、そしてDr. 肥沼チャリティイベントと、いろいろの事業活動に参加協力して下さった皆さん、ご苦労様でした。 岩島 寛

◆11月29日第7回全日本プロバスの総会が小倉で開催されました。八王子より13名の参加。180名で盛大に行われ、今期2年間東日本担当の副会長として留任いたしました。皆様にはご支援よろしくお祈りします。 立川富美代

◆全国総会の続きで下関・山口のツアーを旅の会のメンバーと共に楽しみました。下関の“ふぐ三昧”、山口の旧跡秋吉洞と楽しい旅でした。次の総会は伊勢志摩です。皆様も是非ご参加下さい。立川富美代
◆九州小倉全国大会つづいての山口への旅、有意義で充実した旅でした。多くのプロビアンとの交流では次の再会も約束できました。ハッピーな3日間に感謝です。 飯田富美子

◆全日本の北九州大会とそれに続く旅行に参加させてもらい、大変楽しい時を過ごすことが出来ました。感謝です。ありがとうございました。 田中 信昭

◆小倉総会、山口ツアーは天候にも恵まれ、とても楽しい旅でした。立川さんはじめ、お世話くださいました方々、同行の皆さんありがとうございました。

有泉 裕子

◆友好クラブとの交流、東日本大会、全日本の総会などたくさんの交流の輪を広げていただきありがとうございました。 浅川 文夫

◆11月19日、20日のいちょう祭りには、種々ご協力頂き有難うございました。とくに受付・案内をご担当された皆様には厚く御礼申し上げます。初日は雨でしたが、2日目は天候回復、既往最高の人出となりました。 佐々木研吾

◆先月、今年の宇宙の学校が終了しました。参加した子供達は良い経験をしたと思います。この中から宇宙飛行士ができればうれしいです。 高取 和郎

◆生涯学習サロンの印刷物ができあがりました！ハッピー！これからいよいよ募集開始、大勢の参加を取り込むぞ！来年はサロンの実行の年、皆様のご協力をお願いします。 持田 律三

◆いつも前を向いて笑顔で。今年もあと少しです。皆さんと共に明るく送れる人生に感謝です。会員の皆様の健康を祈っております。 宮城 安子

◆11月で85才になりました。でも、実感は沸きません。いつまでも若い気分で頑張ります。

東山 榮

◆数日前、結婚記念日を二人でささやかに祝った。傘寿を越えると、次の「目標塚」が米寿では遠すぎるので、3年後の「サファイア婚」(55年)を当面元気で目指そうということになった。 佐々木正

◆八王子市に在住して12年が経ちました。先月、本籍を東京都区内から、八王子に移籍致しました。「旅の人」ではなくなりました。よろしくお祈り致します。 山形 忠顯

◆孫が半年遅れで卒業、就職も決まって一安心。

下山 邦夫

◆創価大学駅伝部が第93回箱根駅伝に出場します。八王子の大学としてシード権を獲得することを願って。応援よろしくお祈りします。 佐々木秀勝

◆20年ぶり5度目のベトナム。初めて観光ツアーで世界遺産などを訪ね、1週間ぼーっとしてきました。

橋本 鋼二

◆来週14日より、今年最後の旅、ロンドンへ行ってきます。 野口 浩平

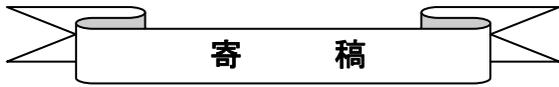
◆11月は怒濤の演奏活動が無事終了しました。

① 八王子市合唱の集い(コーラス)

② ビッグバンド ジャズコンサート

- ③八王子市体育協会創立70周年記念式典(コーラス)
- ④ 南大沢コーラスフェスティバル (コーラス)
- ⑤ 由井吹奏楽団アンサンブルコンサート

武田洋一郎



全日本プロバス協議会第7回総会・北九州大会報告

全日本プロバス協議会副会長 立川富美代

第7回全日本プロバス協議会総会が、11月29日小倉において開催されました。全国より27クラブ、180名の参加でした。総会・記念講演・アトラクション・懇親会と4部に構成されて賑やかでした。

総会では、会長挨拶、来賓挨拶、事業・決算報告および次年度の事業予定・収支予算等が型どおりに進み可決されました。

役員改選では、関西地区野村副会長が勇退され、新たに北海道旭川プロバスクラブの山内理事が副会長に就任されました。理事は殆どが留任し、4名が新任となりました。

東京八王子プロバスクラブより選出されておりました関東担当副会長立川富美代は留任となり、引き続き副会長を担当いたします。どうぞご支援をよろしくお願いいたします。

第7回全日本プロバス協議会総会・大会とツアー

下山 邦夫

11月29日に北九州市で総会・大会が開かれ、会長以下13名が出席しました。午後1時から北九州市、ホテルアルモニーサンクで開かれました。北九州プロバスクラブ副会長松本氏の司会で始まり、型通り議長に中村会長が就任。

中村実全日本会長（横浜）の挨拶

国際ロータリー第2700地区幹事長、小浦ロータリー会長、北九州市松元副市長の来賓挨拶。総会の司会は森山全日本幹事長 中村会長の議長、



議事報告は森山氏。

事業報告、決算報告、予算報告、役員改選が議題でしたが、八王子の立川全日本協議会副会長の再任が決まりました。それと2年後の総会は四日市南クラブを中心として、伊勢方面のクラブが担当するという事です。

総会に続いて北九州大会と称して記念講演、北九州プロバスクラブによる歓迎イベント、懇親会が企画されていました。最初は市長の講演でした。北九州市が公害を乗り越え、環境ビジネスと健康長寿の町として、世界の模範となるよう頑張っておられる姿を話されました。歓迎イベントは北九州クラブ会員の方々が中心で舞台をつくりあげていました。拍手が続きました。

筑前琵琶演奏家山口美江子氏は平家物語壇ノ浦の部分を詠われました。

「落つべきものはみな落ちて、死すべきものはみな死して、主なき船の波間に漂い、白波ならぬ白幡のときめく世とはなりにけり」平家滅亡を聞かせる琵琶の音はこの地ならではの感慨でした。

男性コーラスのメール・ハーモニーも歌いました。プロの歌手が指導しておられますが、人数が少なくシニアダンディーズには及ばなかったようです。やはり会員でプロ歌手の方が、北原白秋の生涯とその逸話をはさみながら、「城ヶ島の雨」を始めとする童謡を聞かせてくれました。会場の皆さんで「揺籠の歌」の合唱で括られました。

懇親会は古賀靖子会長の挨拶で始まり、乾杯の後、勇壮な獅子舞が登場してきました。



翌日、翌々日に東京八王子プロバスクラブ・参加メンバーがツアーを楽しみました。参加者は岩島会長、武田副会長(総会のみ出席)、立川全日本副会長、飯田幹事他計12名です。同好会の旅の会も共同企

画でした。門司のレトロな港、フグ料理と歴史の話題豊かな下関、珍しいカルスト台地と鍾乳洞の秋吉台、名物女将の湯田温泉と楽しみ、最後の日は京都を小型にした旅情豊かな山口市を巡り、山口宇部空港から羽田へ無事帰着、というコースでした。

第2日 門司

9時にチャーターしたマイクロバスに乗り込み門司区へ。(北九州市は小倉、門司、若松、八幡、戸畑の5都市が合併し、最も早く政令指定都市になった市です) 門司区は九州玄関口の駅としてのレトロな面影が色濃く残っています。九州各地への出発点駅



＝鉄道記念館、港、そして建物(三井クラブや大阪商船ビル…)

などをのんびり見学しました。

下関 船が着いたところが唐戸市場、赤間神宮をお参りし、関門大橋の真下、壇ノ浦の早い潮の流れの岸边にある平家茶屋で昼食。フグ刺し、チリ、ヒレ酒などフグ料理を満喫、景色もよし、この上ない贅沢をしました。

秋吉台 カルスト台地、3億5千年前の南方の海の海底火山の周りのサンゴ礁が長い年月を経て作り出したカルスト台地、雄大で神秘的。



秋芳洞は地下に大きな空間があり、つらら、石筍、石柱、百枚皿、ハリポッターの世界に入ったようでした。

湯田温泉 山口市内湯田温泉。夕食は、我々だけで、カラオケ付きの部屋でした。

またまたフグたっぷりのおいしい料理を味わって、

これでは飲まないわけにはいかない。皆さん多に飲みました。食事の後は女将のショー。そのスピードと賑やかさと面白さに圧倒されました。

なんせ次から次へ色んな芸をどんどん繰り出して、息をつく暇もないほど笑いました。71歳で52年間休みなく毎日続けているとか、その元気さに感動しました。宮崎さんが舞台へ上がって大きなシャボン玉で観客を包んだり……最後は自分の髪の毛に墨をたっぷりつけた頭を振りつつ、大きな書を書いて見せました。

第3日 瑠璃光寺からスタート。国宝五重塔はさすがに美しい。地元のボランティアガイドさんから、塔の謂われや構造などの詳しい解説を聞きつつ見学しました。山口市は、一の坂川を加茂川に見立てて、京の都を模した町(大内氏)。さすがに雅な雰囲気です。



ザビエル記念聖堂があるのは、ザビエルが布教を許された最初の教会の跡(火災の後新築されたもの)。**龍福寺**は大友氏館跡、ボランティアさんの詳しい解説は地元への誇りと愛情で、聴き応えがありました。**常栄寺・雪舟庭**に行きました。銀閣寺の庭の風情を思い出すのは、この町の京への拘りを感じるとともに、文化都市山口を強く印象付けられました。

最後の食事をお土産屋兼の長州苑で。山口宇部空港3時発の便で羽田へ。ずいぶん荷物が増えた方々もいらっしやっただ。

無事羽田着。かくて関門・長州の旅を終えました。企画していただいた立川さん、面倒をかけた浅川さん、田中さん、メンバーのために自分のお手当を提供して下さった岩島会長、立川全日本副会長、浅川交流担当、支援していただいた旅の会の宮崎さん、ありがとうございました。揃って行動した皆さん、楽しかったですよね。

同好会便り 美術鑑賞会

青梅美術館とオリンパス技術歴史館「瑞古洞」

池田ときえ

小春日和の12月15日(木)、参加者8名。青梅界隈と八王子石川の近場でのんびり過ごしました。青梅美術館では小島善太郎画伯の大作を拝見。昨年の日野の記念館に続きです。

いつもながらのびやかな画風は見る者の心を温めてくれます。常設展ではほかに藤本能道氏の陶芸がありました。企画展「目は口ほどにものを言い」も目の表現を共通項にした収蔵品の展示で、ただ並べるだけではない発想が面白いと思いました。

美術館は釜ヶ淵公園の高台にあり、外のテラスからは蛇行する多摩川や公園の樹々、遙かに広がる山々が見渡せます。これもまた作品の一つでしょう。昼食は公園内の「かんぼの宿青梅」。ここも見晴らしのよいレストランです。

オリンパス技術歴史館「瑞古洞」は、100年近いオリンパスの歩みの中で研究開発された製品の数々を展示しています。1920年の初代顕微鏡「旭号」に始まり、



カメラ、内視鏡等の医療機器が年代ごとに並んでいます。蓄積された豊富な技術ノウハウを基に、研究用の顕微鏡はそのほとんどがオーダーメイドだそうです、お値段は!!!。

カメラは重くて大きい時代から軽くて小さい現代まで、みなさん懐かしそうに眺めていました。内視鏡などはお世話になっても自分の目で見る機会はないもので、恐る恐る拝見。解説なさる社員の方々はなんでもご存知です。プロバス会員の鋭い質問にも十分応えてくださいました。

研究施設のみという広い構内にある「瑞古洞」は事前申し込みが必要ですが、営業時間内ならだれでも見学できます。技術立国日本の粋、お薦めです。

申し込み

オリンパス技術歴史館「瑞古洞」

042-642-3086 へどうぞ

同好会便り 俳句の会

私の一句～12月の句会から

河合 和郎

句会が発足して早や5年。さて、今月の一句は。
絹の道昔もかくや落葉踏む 馬場 征彦

かつて交易の道として賑わった絹の道の歴史を振り返りつつ今を詠む。落葉の音は変りなく。

リヤカーの裏返されて春を待つ 渋谷 文雄

ローカルな旅の車窓の光景とか。一年の終りと新年への希望。平明にして句意は深い。

大岳山臍の上まで紅葉す 山形 忠顯

紅葉は山を下る。大岳山は今中腹辺りまで紅葉したと詠む。中七の措辞に俳諧味があり、かつ個性的。

競り合ふてピッチの子等の息白し 東山 榮

ボールを追って躍動する子供達の姿が生き生きと描けた。季語が生きている。平明にして佳句。

爐話や猫ぬくぬくと膝の中 矢島 一雄

暖炉を囲んでの一家団欒の光景。ペチカの歌が聞こえてくるような。心まで温くなる一句。

まぼろしの如く崩れて冬花火 池田ときえ

冬花火の儚さを詠んで、その奥に人生の哀歓を込める。繊細かつ心象的な感覚の一句。

石の影霜解け残る枯山水 田中 信昭

京の名園の一景か。厳しい寒さの朝、庭石の影に霜解けの後を見た。歴史の陰影もまた。

木枯しや五重塔に入りにつけり 飯田富美子

不思議な迫力がある。木枯と五重塔。目に見えない風の動きを「入りにつけり」と言い切る作者の信念。

初雪や街灯つつみ降り続く 立川富美代

先日の初雪の景。11月の大雪に驚く作者。「街灯つつみ」が雪の激しさをうまく表わしている。

来し方も行く末もなし日向ぼこ 河合 和郎

日向ぼこの何とも言えない心地よさ。過去も未来も忘れて至福のひと時。これぞ地上の楽園。

編集後記：プロバスクラブに入った頃は原稿用紙を使っていました。電子データで送ってもらおうと楽ですね。電子データでのプロバスだよりの編集は初めてです。編集はいつやっても面倒ですね。苦労しましたが、新年に配られるプロバスだよりの編集、光栄です。

永井昌平